

ニホンジカの管理の基本と情報管理体制の構築方法

株式会社 野生動物保護管理事務所

岸本 康誉

講演要旨

シカは、農林業被害に加えて自然植生への影響も深刻であり、計画的な個体群管理が必要な代表例である。ここでは、シカによる被害の現状とシカの生息動向を説明するとともに、管理計画を策定する上で重要な目標設定や評価の考え方や、そのために必要なモニタリング設計について解説する。また、管理を確実に迅速に進めていく上での情報管理の方法について事例を交えながら説明する。

■被害や生息状況の現状

シカは、イノシシと同様に、深刻な農業被害を及ぼす獣種であることに加え、林業や自然植生への影響も甚大である。林業への被害は全国統計で4.9千haであり、その約7割がシカによるものである。また、自然植生への影響も深刻であり、過度な採食圧により、下層植生の衰退をはじめ、高木性稚幼樹の消失による更新阻害や土壌流出による生態系基盤の消失等ももたらす。一方で、シカの全国的な個体数2014年度までは単調な増加傾向を示し、ここ数年は横ばいで推移している。深刻化する農林業や自然植生への影響を軽減するためにも、今後、強度な捕獲による個体数管理が必要な獣種である。

■管理計画における目標設定とモニタリングの設計

シカの管理を進めていく上で、データに基づいた目標設定と目標達成に向けた各種事業の進捗管理や評価が必要である。目標設定と事業評価等に関する主な項目は以下の通りである。①シカの管理目標の設定：農業被害、林業被害、自然植生への影響を軽減するためのシカの密度管理の目標設定、②シカの捕獲目標の設定：①のシカの管理目標を達成するために必要なシカの捕獲目標の設定、③捕獲目標の割当・分担：都道府県単位で設定したシカの捕獲目標の市町村への割当、④進行管理・評価：捕獲目標の達成状況に応じたシカの管理目標の達成状況の確認と対策の見直し。

これらの目標設定や事業評価を進めるためには、被害の状況や生息状況を管理の対象範囲で網羅的に把握する必要がある。そのためには、効率的な調査手法を選択していくことが必要である。全国的なモニタリングの実施状況を踏まえると、生息状況については糞塊密度と出猟カレンダーによる情報収集、農業集落アンケートによる被害評価、森林下層植生衰退度調査による影響評価などが有効な手法であると言える。

■情報の管理と共有の体制

対策状況に応じて速やかに今後の方針を決定していくには、情報の管理と共有の体制を整えていくことが重要である。ここでは、リアルタイムでの情報共有と事業の進行管理について、指定管理鳥獣捕獲等事業やCSF対策を例にその在り方を説明する。